



アグリテックビジネスコンテスト
応募要項

2022 年 5 月

埼玉県深谷市

1. ディープ バレー アグリテック アワード DEEP VALLEY AGRITECH AWARD 2022 開催趣旨.....	2
2. 主催者及び事務局	2
3. テーマ、対象部門、応募資格	3
3.1. テーマ「深谷市におけるアグリテックの現場導入と未来創造」.....	3
3.2. 対象部門.....	3
3.3. 応募資格.....	4
4. 応募期間、面談、応募方法、審査プロセス.....	4
4.1. 応募期間.....	4
4.2. 面談	4
4.3. 応募方法.....	4
4.4. 審査プロセス.....	5
4.5. 提出書類.....	5
4.6. エントリーシート 記載方法見本【現場導入部門】	6
4.7. エントリーシート 記載方法見本【未来創造部門】	7
5. 各賞	8
6. 審査ポイント	9
7. 提案に関する権利関係、その他	10
7.1. 応募に際しての注意事項	10
7.2. 提案に関する権利関係	13
8. 参考資料.....	14
8.1. 深谷市の農業に関する現状認識	14
8.2. 深谷市の農業基本データ	15
8.3. 深谷市における農業課題（例）	18

1. DEEP VALLEY Agritech Award 2022 開催趣旨

DEEP VALLEY Agritech Award は、儲かる農業都市の実現のため、深谷市の農家が抱える農業課題を解決する技術（アグリテック）を表彰する取組です。

深谷市は、受賞者と共に、多様な担い手と連携しながら、深谷市の農家が求めるアグリテックの開発を支援し、伴走型での現場とのマッチング支援、実証フィールド提供支援、出資等の様々な支援策を行います。実績として、過去 3 回の DEEP VALLEY Agritech Award により、4 社へ出資を実行いたしました。また、過去に最優秀賞を受賞した企業 2 社を含め、現在深谷市では合計 3 件のスマート農業関連の国のプロジェクトが進められています。

こうした取組を通じ、受賞者が深谷市の農家と協力しながら技術開発・事業開発を進め、さらには深谷市で得られた知見・経験をもとに日本全国の農業課題の解決に向けて展開していけるよう支援します。

2. 主催者及び事務局

主催：埼玉県深谷市

事務局

- ・ 名称：DEEP VALLEY Agritech Award 2022 事務局（運営：株式会社マイナビ）
- ・ 連絡先（E-mail）：agri-deepvalley@mynavi.jp（マイナビ）

DEEP VALLEY 推進体制について

DEEP VALLEY Agritech Award 2022 は、農業に関わる多様な企業がつながりあい、自発的な企業の集積が発生しているまちの状態である「アグリテック集積都市 DEEP VALLEY」を実現するための取組として、深谷市の農業課題解決に資する企業・技術を集める取組として位置づけられています。

DEEP VALLEY 実現に向けて産業集積を戦略的に実行するため、下記の農業・商工業各団体や、大学、企業等を **DEEP VALLEY 推進パートナー（※）** として取組みます。

※DEEP VALLEY 推進パートナー：

ふかや農業協同組合、埼玉岡部農業協同組合、花園農業協同組合、
深谷商工会議所、ふかや市商工会、
学校法人智香寺学園 埼玉工業大学、
株式会社トラストバンク、株式会社マイナビ

3. テーマ、対象部門、応募資格

3.1. テーマ「深谷市におけるアグリテックの現場導入と未来創造」

今年のアワードのテーマは、「深谷市におけるアグリテックの現場導入と未来創造」です。

ユーザーである深谷市の農家が、すぐにでも手を伸ばすことのできる技術から、数年後の近い将来に実用することが可能となる技術まで、深谷市の農業の現在、そして未来をより良いものにしていけるアグリテックの提案をお待ちしています。

3.2. 対象部門

今年のテーマに沿って、以下の2部門を対象として募集します。

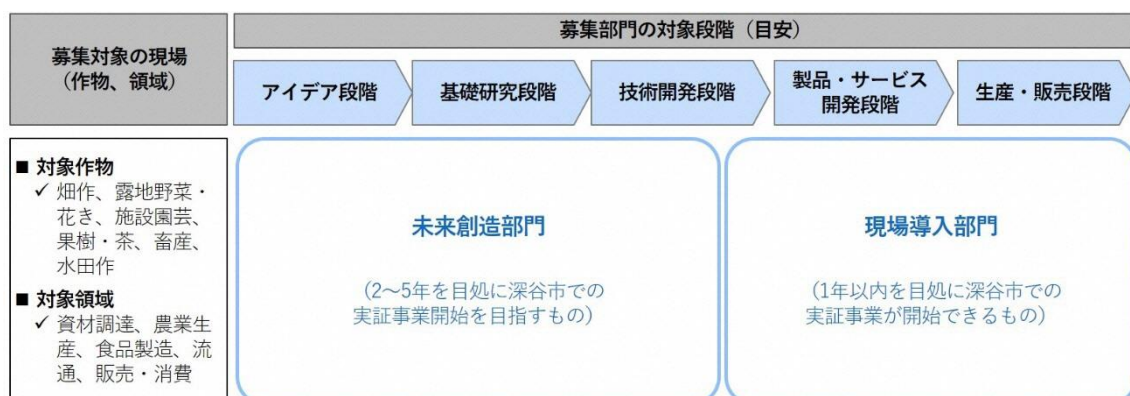
(1) 「現場導入」部門

本アワード終了後1年以内を目処に深谷市での実証事業が開始できる解決策をご提案ください。解決策は、既存の製品・サービスのみのご提案ではなく、深谷市の農業現場の課題解決に重点をおいた提案を求めます。農業課題は、参考資料「深谷市の現状認識」や「深谷市における農業課題（例）」を参考としてください。

(2) 「未来創造」部門

本アワード終了後2～5年を目処に深谷市での実証事業の開始を目指す解決策をご提案ください。解決策は、アイデア段階・基礎研究段階のご提案も可とし、深谷市の農業現場の課題解決を起点として日本全体の農業の未来を創造することに重点をおいた提案を求めます。「現場導入部門」との違いについては、参考資料を参考としてください。

今年のアワードにて募集する「現場導入部門」「未来創造部門」において、深谷市がアグリテックを導入する対象現場（作物、領域）と、各部門にて募集するアグリテックの対象段階（目安）の目安を下記に整理しています。応募ご検討の際に不明点がある場合はお問い合わせください。



3.3. 応募資格

受賞後に、深谷市の農家が抱える農業課題の解決や改善に向けた取組を実施できる個人・法人の方
応募者の所在地については深谷市内外を問いません。また、DV 会員企業、過去に実施された DEEP
VALLEY Agritech Award 応募者につきましても応募資格があります。その他、グループでの応募も可
能です。

4. 応募期間、面談、応募方法、審査プロセス

4.1. 応募期間

プレエントリー期間：2022 年 5 月 9 日（月）12:00 ～ 2022 年 6 月 5 日（日）17:00 締切

本エントリー期間：2022 年 6 月 6 日（月）12:00 ～ 2022 年 7 月 8 日（金）17:00 締切

※本アワードに関する「エントリー説明会」を 2022 年 6 月 1 日（水）に実施予定です。参加ご希望
の方は本アワードのプレエントリーフォーム、もしくは特設サイト内の説明会予約フォームよりお申込みくださ
い。

4.2. 面談

「ナビゲーター相談会」として、本アワードの提案ポイントの解説、深谷市の農業課題の理解促進を目的
とした相談員（株式会社マイナビ 執行役員 農業活性事業部 事業部長 池本氏）との個別事前
面談を実施します。プレエントリーフォーム、もしくは本エントリーフォームよりお申込みください。

また、「ナビゲーター相談会」実施後に、本アワードに関するご不明・ご不安な点について深谷市職員との
個別オンライン面談を申し込むことが可能です。

ご希望の方は相談員（株式会社マイナビ 池本氏）に直接お申し出いただくか、
DEEP VALLEY Agritech Award 運営事務局（agri-deepvalley@mynavi.jp）
までご連絡ください。

4.3. 応募方法

所定のエントリーシートに日本語で入力いただいた上で、エントリーシートと補足・参考資料をウェブサイ
トの応募フォームから本エントリー期間内に提出してください。補足・参考資料は提出を必須とし、別途資
料を ZIP 形式等で圧縮ファイル（エントリーシート含み最大 5MB まで）として添付してください。5MB
を超える場合には、応募フォーム内でエントリーシートのみを ZIP 形式にて添付し、補足・参考資料は
DEEP VALLEY Agritech Award 運営事務局（agri-deepvalley@mynavi.jp）までご送付く
ださい。

➤ https://agri.mynavi.jp/deepvalley_agritechaward/

※ エントリーシートの記載方法は応募要項 p.6～7 の記載方法見本を参照ください。
現場導入部門と未来創造部門で内容が異なります。ご注意ください。

4.4. 審査プロセス

書類審査による一次審査、プレゼン審査・面談による二次審査を行います。これらを通じたご提案による最終審査では、公開での審査により最優秀賞及び各賞を選定いたします。

- プレントリー 5月9日（月）12:00 ～ 6月5日（日）17:00 締切
 - エントリー説明会 6月1日（水）14:00～
(場所：(株)マイナビ 人形町オフィス ノウラボセミナールーム)
 - 本エントリー 6月6日（月）12:00 ～ 7月8日（金）17:00 締切
 - 一次審査（書類審査） 7月11日（月）～19日（火）
 - 一次審査通過者へのメール通知 7月21日（木）
 - 二次審査用動画提出締切 8月19日（金）17:00 締切
 - 二次審査（プレゼン審査、面談） 9月10日（土）、9月11日（日）
 - ※ プレゼンテーション動画は事前送付、面談のみこちらから指定した日時にオンラインにて実施予定です。
 - ※ 審査の過程において、必要に応じて提案製品の現地審査・見学等を実施する場合があります。
 - 二次審査通過者へのメール通知 9月12日（月）～20日（火）
 - 最終審査用動画提出締切 10月7日（金）
 - ※ 二次審査後、審査員からの総評をフィードバック致します。動画の修正は任意になりますが、再度、プレゼンテーション動画は事前送付、最終審査の面談はオンラインにて実施予定です。
 - 最終審査（プレゼン審査、面談） 10月27日（木） 会場：オンライン開催（想定）
 - ※ 最終審査は収録撮影を実施し後日配信を予定しています。
 - 事業化に向けた支援開始 11月～
 - 表彰式 12月20日（火） 会場：深谷市役所
- ※ 応募状況等によっては、スケジュールを変更する可能性があります。最新スケジュールは、DEEP VALLEY Agritech Award 特設サイト (https://agri.mynavi.jp/deepvalley_agritechaward/) 上にてお知らせします。
- ※ 本年度は新型コロナウイルス感染拡大対策として、オンラインでの開催を予定しております。

4.5. 提出書類

応募の際は、以下の書類を提出してください。

- エントリーシート（下記 4.6 および 4.7 参照）
- 補足・説明資料（企業や提案の内容を補足説明する資料を提出ください。形式は問いません）

※ zip 形式等にまとめて提出、合計 5MB まで

※ 5MB を超える場合には、応募フォーム内でエントリーシートのみを ZIP 形式にて添付し、補足・参考資料は DEEP VALLEY Agritech Award 運営事務局 (agri-deepvalley@mynavi.jp) に送付

4.6. エントリーシート 記載方法見本【現場導入部門】

(様式 1)

受付番号 (記載不要)

DEEP VALLEY Agritech Award 2022 エントリーシート (現場導入部門)

企画提案名	〇〇〇〇		
企業名 (フリガナ)	株式会社〇〇〇〇 (〇〇〇〇)		
応募者名 (フリガナ)	〇〇〇〇 (〇〇〇〇)		
所在地・住所	〇〇〇〇		
連絡先	E-mail: 〇〇@〇〇〇〇〇〇〇〇 TEL: 〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇 FAX: 〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇		
生年月日	西暦〇〇〇〇年〇〇月〇〇日 (〇〇歳)	職業	〇〇〇〇
企業概要	業種	〇〇〇業	事業内容
	設立年月	西暦〇〇〇〇年〇〇月設立	資本金
	従業員数	〇〇人	〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇円

【企画提案書概要】

※ どのような農業課題に対して、どのような解決策を実施するのか、提案事業の特徴や意義が農業生産者にも伝わるように、簡潔にわかりやすく記載してください。

【農家の導入可能性】

※ 提案事業がコストの面から深谷の農家が導入可能であることを説明してください。
※ また、導入可能性を高める工夫があれば併せて記載してください。

【農家の実用性】

※ 提案事業がどのように深谷の農業現場において役立つか、具体的に記載してください。
※ 提案事業の導入により期待される効果 (定量的／定性的) や実現可能性を具体的に記載してください。

【農家の収益性】

※ 提案事業が、深谷の農業生産者の継続的な収益性向上／コスト削減にどのように貢献するか記載してください。

【提案内容の独創性】

※ 従来の技術やサービスと比較して、新規性や革新性を兼ね備えているか
※ 従来の技術・製品・サービスと比較して新規性がある点や将来的に期待できる点を、農業生産者にも伝わるように記載してください。

※ 企画提案内容に関する補足・参考資料等を併せて提出してください。

※ エントリーシートの記載方法は応募要項の P.6 を参照ください。

※ 各分量は変更しても差し支えありませんが、1 ページ以内に収めるようにしてください。

※ 提出時には上記赤字は削除してください。

4.7. エントリーシート 記載方法見本【未来創造部門】

(様式 1)

受付番号 (記載不要)

DEEP VALLEY Agritech Award 2022 エントリーシート (未来創造部門)

企画提案名	〇〇〇〇		
企業名 (フリガナ)	株式会社〇〇〇〇 (〇〇〇〇)		
応募者名 (フリガナ)	〇〇〇〇 (〇〇〇〇)		
所在地・住所	〇〇〇〇		
連絡先	E-mail: 〇〇@〇〇〇〇〇〇 TEL: 〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇 FAX: 〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇		
生年月日	西暦〇〇〇〇年〇〇月〇〇日 (〇〇歳)	職業	〇〇〇〇
企業概要	業種	〇〇〇業	事業内容
	設立年月	西暦〇〇〇〇年〇〇月設立	資本金
	従業員数	〇〇人	〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇円

【企画提案書概要】

※ どのような農業課題に対して、どのような解決策を実施するのか、提案事業の特徴や意義が農業生産者にも伝わるように、簡潔にわかりやすく記載してください。

【技術・サービスの発展性】

※ 提案事業がコストの面／リソース面から実現可能であることを説明してください。
※ また、技術・サービスの実現・発展性を高める工夫があれば併せて記載してください。

【深谷での適応性】

※ 提案事業がどのような深谷の農業課題をどのように解決するか、具体的に記載してください。
※ また、深谷の農家が導入可能か、もしくは導入障壁を下げる工夫があれば併せて記載してください

【農家の収益性】

※ 提案事業が、深谷の農業生産者の継続的な収益性向上／コスト削減にどのように貢献するか記載してください。

【提案内容の独創性】

※ 従来の技術やサービスと比較して、新規性や革新性を兼ね備えているか
※ 従来の技術・製品・サービスと比較して新規性がある点や将来的に期待できる点を、農業生産者にも伝わるように記載してください。

※ 企画提案内容に関する補足・参考資料等を併せて提出してください。

※ エントリーシートの記載方法は応募要項の P.7 を参照ください。

※ 各分量は変更しても差し支えありませんが、1 ページ以内に収めるようにしてください。

※ 提出時には上記赤字は削除してください。

5. 各賞

賞金（出資金）総額 1,000 万円

出資金額については、出資可否を含めた受賞者との協議の上決定します。

最優秀賞（現場導入部門） 1 件

現場導入部門の提案のうち、最も優れた提案を、審査により決定します。

対象者には、出資金優先交渉権及び深谷市内での実証フィールドの提供支援を行います。

審査の結果、該当なしとなる場合もございますのでご了承ください。

最優秀賞（未来創造部門） 1 件

未来創造部門の提案のうち、最も優れた提案を、審査により決定します。

対象者には、出資金優先交渉権及び提案内容の実現に向けた実行支援を行います。

審査の結果、該当なしとなる場合もございますのでご了承ください。

協賛企業賞

現場導入部門、未来創造部門の提案のうち、協賛企業により決定します。

協賛企業賞の副賞については、協賛企業が確定した後に、DEEP VALLEY Agritech Award 特設サイト上にてお知らせします。

協賛企業の募集の都合上、協賛企業賞を本年度は実施しない場合もございますのでご了承下さい。

※ 各部門の最優秀賞受賞者には、副賞として深谷ねぎ（10kg 想定）を贈呈します。

※ 出資金は最優秀賞を受賞した 2 者を含め総額 1,000 万円を上限としますが、深谷市からの 1 者あたりの出資金額は対象者の資本金額の 4 分の 1 未満を上限とします。

6. 審査ポイント

各部門の審査項目とポイントは下記の通りです。

【現場導入部門】

審査項目	審査ポイント
導入可能性	✓ 深谷市の農家が技術・サービスを導入・試用しやすくなる工夫が施されているか
実用性	✓ 提案の技術・サービスは深谷の農業現場で役立つものであり、深谷の農業現場の課題が解決できると感じられるか
収益性	✓ 深谷市の農家が導入することで、継続的に収益性の向上が見込める技術・サービスになっているか
独創性	✓ 技術・サービスの提案に、新しい技術やこれまでにない視点が含まれているか

【未来創造部門】

審査項目	審査ポイント
発展性	✓ 提案の技術・サービスが深谷の農業現場で活用されている未来が見えるか
深谷での適応性	✓ 提案されている技術・アイデアは深谷の農業課題に即しており、かつその課題を解決する手段となり得るか
収益性	✓ 深谷市の農家が導入することで、継続的に収益性の向上が見込める技術・サービスになっているか
独創性	✓ 技術・サービスの提案に、新しい技術やこれまでにない視点が含まれているか

- ※ 現場導入部門では、本アワード終了後 1 年以内を目処とした深谷市内での実証実験の開始、未来創造部門では、本アワード終了後 2～5 年以内を目処とした深谷市内での実証実験を開始してください。実証実験の実施に際しては、深谷市は様々な観点から伴走型の支援を行います。
- ※ 審査では、上記の審査ポイントに共通した観点として、深谷での課題解決を重視します。

7. 提案に関する権利関係、その他

7.1. 応募に際しての注意事項

応募に際しては、以下の項目についてあらかじめ同意の上、お申込みください。

1. 募集対象者について

- ① 学生、大学院生（修士、博士課程に在学）、個人による応募の他、グループでの応募も可能です。未成年の方は、成年の方とのグループでの参加をお願いします。
- ② 自らビジネスプランを作成し、当該事業を実行する意志を持たない者による応募は不可とさせていただきます。
- ③ 反社会的勢力である者、反社会的勢力との間に過去・現在又は直接・間接を問わず、取引、金銭の支払い、便宜の供与その他一切の関係又は交流がある者、また、反社会的勢力に属する者又は反社会的勢力との交流を持っている者が役員に選任され、従業員として雇用され又は経営に関与している事実がある者は、応募することができません。
- ④ 審査結果については、各審査段階終了後に E-Mail で応募者に連絡します。落選理由など、審査結果に関する個別のお問合せには応じられませんので、予めご了承ください。審査後に法令違反等が発覚した場合は、審査結果を取り消す場合があります。
- ⑤ 一次審査、二次審査の時に主催者からの内容確認、質疑、追加情報提供等に応じていただくことがあります。
- ⑥ 審査の過程において、製品の確認（デモンストレーション実施等）を実施させていただく場合があります。
- ⑦ 上記に関わらず、主催者が不適切と認めた応募者については、主催者の判断により応募資格取り消しとさせていただきます。

2. 表彰事業者について

応募内容について、展示や公表等に関する権利は主催者が優先保持します。

3. DEEP VALLEY Agritech Award 2022 における個人情報の取り扱いについて

深谷市は、「深谷市アグリテック集積戦略実行支援業務（以下、「本業務」といいます）」および本業務の一環として実施する「DEEP VALLEY Agritech Award 2022（以下、「本プロジェクト」といいます）」等において、任意に頂戴する個人情報の管理に細心の注意を払い、これを適正に取り扱います。また、ご本人の同意に基づいて提出される個人情報は、深谷市の定める深谷市個人情報保護条例及び同条例施行規則に則って管理されます。

なお、深谷市は「深谷市アグリテック集積戦略実行支援業務」を株式会社トラストバンクに委託しており、株式会社トラストバンクから再委託を受けた株式会社マイナビが、本業務のうちイベント企画運営業務ならびに研修企画運営業務とこれに付随関連する業務の企画・運営を行います。

■ 個人情報

個人情報とは、ご本人に関する情報であって、当該情報に含まれる氏名、住所その他の記述等により個人を識別することができるものをいいます。

また、その情報のみでは個人を識別できない場合でも、他の情報と容易に照合することができ、それにより結果的に個人を識別することができるものも個人情報に含まれます。

■ 個人情報の利用目的

深谷市は、本プロジェクトにおいて取得した個人情報を、以下の目的の範囲内で利用いたします。

- (1) 本業務の事業管理、円滑な運営。
- (2) 本業務において実施する各種サービスのご案内。
- (3) 本業務において実施する各種サービスのアンケートの実施等。
- (4) 本業務において実施する各種サービスに関するご意見、お問い合わせへの回答。
- (5) 本業務において実施する本プロジェクトの選考、受賞特典の授与。
- (6) 本業務、本プロジェクトとそれに付随するメール配信等。

■ 個人情報の共同利用について

本プロジェクトでは下記の通り、取得した個人情報を共同利用いたします。

- ①利用項目： 姓、名、メールアドレス、電話番号、企業名、住所、生年月日
- ②利用する者の範囲： 主催者である深谷市より任命された本プロジェクト審査員
- ③共同利用の目的： 本プロジェクトの優秀賞受賞企業および協賛企業賞受賞企業等を、複数の審査員によって公正・公平に審査し決定するため

なお、上記管理責任者は主催者である深谷市とします。

■ 個人情報の第三者への開示

個人情報について、本項に定めている場合を除き第三者に開示することは、原則いたしません。提供先・提供情報内容を特定したうえで、ご本人の同意を得た場合に限り開示します。

ただし関係法令に反しない範囲で、応募者の同意なく応募者の個人情報を開示することがあります。

■ 第三者の範囲

以下の場合に個人情報の提供を受ける者は、第三者には該当しないものとします。

(1) 利用目的の達成に必要な範囲内において、深谷市が個人情報の取り扱いの全部または一部を委託する場合。

(2) 予め明示した条件に基づき共同利用を行う場合。

■個人情報ご提供の任意性について

本業務における個人情報の提供は任意ですが、情報を提供いただけない応募者については、利用目的に挙げた業務のうちご案内、選考、アンケートの配信、ご意見・お問い合わせへの回答ができない場合があります。

■個人情報の開示及びお問い合わせについて

本件でご提供いただいた個人情報の開示に関する事項や修正、お問い合わせ等につきましては下記へご連絡ください。

本プロジェクト運営事務局

DEEP VALLEY Agritech Award 運営事務局

(運営:株式会社マイナビ 農業活性事業部 イベント事業運営課)

電話 : 03-6667-1181

E-MAIL:agri-deepvalley@mynavi.jp

4. 提出書類について

- ① 提出書類は日本語で記入してください。
- ② 締切日時を経過しての応募申請は、如何なる理由でも受け付けできません。
- ③ 応募書類に空欄などの不備がある場合は、審査の対象となりません。
- ④ 本応募要項に示された様式以外での応募は、認められません。
- ⑤ 締切日時経過後の書類等の変更・差し替えは原則として認められません。
- ⑥ 最終審査は収録撮影を行い、後日配信公開を予定しています。お申込み内容などについて、ノウハウや営業上の秘密事項、特許事項などについては、法的保護を行うなど申込み者の責任で対応することとし、主催者側での法的保護は行いません。公表しても差し支えない範囲で応募してください。
- ⑦ ご提出いただいた応募提案書等は返却しません。
- ⑧ なお、応募提案の内容が、第三者の著作権その他知的財産権の対象となっているものが含まれている場合、当該権利を使用した結果として生じる責任は、応募者が負うこととします。応募提案の内容が第三者の知的財産権を侵害することにより主催者が損害を被った場合には、応募者はこれを補償することとし、第三者からの損害賠償その他の請求について、応募者は自己の責任と費用において対応し、主催者を防御するものとします。
- ⑨ 1 応募者につき、どちらかの部門に 1 提案のみ受け付けいたします。

7.2. 提案に関する権利関係

1. 応募された提案に関する知的財産権

- ① 応募された提案に関する著作権その他の知的財産権は応募者に帰属します。応募者は、主催者にこれらの権利を非独占的かつ無償で許諾し、主催者が本プロジェクトの遂行ために事業提案書を利用することおよび応募内容を実施することに同意するものとします。
- ② 応募者は、自身が行う提案が、第三者の著作権その他知的財産権を侵害していないことを保証します。万一、応募提案が第三者の権利を侵害している場合又は侵害するおそれがあると主催者が判断した場合（応募後に侵害となった場合を含みます）、受賞発表後でも受賞を取り消すことがあります。
- ③ なお、応募提案の内容が、第三者の著作権その他知的財産権の対象となっているものが含まれている場合、当該権利を使用した結果として生じる責任は、応募者が負うこととします。応募提案の内容が第三者の知的財産権を侵害することにより主催者が損害を被った場合には、応募者はこれを補償することとし、第三者からの損害賠償その他の請求について、応募者は自己の責任と費用において対応し、主催者を防御するものとします。

2. 受賞後の経過報告

- ① 受賞者には、受賞後の経過について深谷市産業振興／農業関連イベント等にて報告していただくことで、継続して取組を周知できる機会を提供いたします。また、受賞後の活動実績についても報告を求めることがあります。
- ② 最優秀賞受賞企業には本アワードを含む「アグリテック集積都市 DEEP VALLEY」事業のPR 施策（インタビューや動画制作等）にご協力いただく場合がございます。

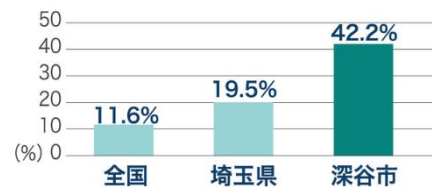
8. 参考資料

8.1. 深谷市の農業に関する現状認識

深谷市の農業に関する現状認識は下記の通りです。

✓ 豊かな農業

- ・ 深谷市は日照時間が長く、関東を代表する利根川と荒川 2 つの河川によって肥沃な大地にも恵まれている
- ・ 深谷市の面積の約半分は田畑であり、全国的にも耕地面積率が高い（深谷市 42.2%、埼玉県 19.5%、全国 11.6%）
- ・ 農作物としては、全国的に知られる深谷ねぎをはじめ、ブロッコリー（作付面積では全国 1 位）、キュウリ、スイートコーンなどの多種多様な野菜が生産されている他、ユリやチューリップなどの花き栽培も盛んである



耕地面積率（耕地面積／総土地面積）

（出典：農林水産省HP 統計情報 わがマチ・わがムラ
埼玉県深谷市の農林水産業の基本指標より）

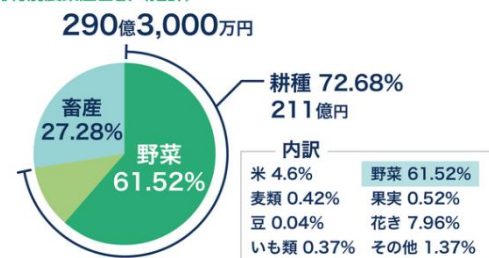
✓ 総農家数・販売農家数は埼玉県内トップクラス

- ・ 深谷市の総農家数は 2,134 戸、販売農家数は 2,122 戸となっている（2020 年農林業センサスより）

✓ 深谷市は関東の台所

- ・ 令和元年の深谷市農業産出額は 290 億 3,000 万円（推計）であり、そのうち 72.68%を耕種（211 億円）が占めている。耕種の内訳では野菜が最も多い（61.52%）
- ・ 首都圏にあるという立地特性を活かし、多種多様な農産物を首都圏に供給し、関東でも有数の農業地域としての地域を確立している

市町村別農業産出額（推計）



（出典：農林水産省HP 令和元年 埼玉県の市町村別農業産出額（推計）より）

✓ 農家の高齢化の進行に伴う、遊休農地・耕作放棄地の増加

- ・ 市内工業団地の立地や農業以外の環境整備が進み、社会情勢の変化もあり農業の兼業化が進行し、土地利用型農業を中心として農業の担い手不足が深刻化
- ・ 兼業農業者自身の高齢化が進み、機械更新時や世代交代等を機に農地の貸出希望が増加している一方、農地を引き受ける担い手が不足していることや、新規就農者への貸出に対する心理的抵抗感が壁となっている
- ・ 農業就業人口の高齢化や減少に伴い、農業後継者に継承されない農地や、担い手に集積されない農地において一部遊休化した農地が近年増加傾向にある

- ・ 遊休農地を放置すれば、利用が遅れるばかりでなく、周辺農地の耕作にも大きな支障を及ぼすおそれがある

✓ 後継者不足となる背景に関する原因仮説

- ・ 子が後を継がない原因・背景として、「農業はきつい」「農業は稼げない」「休みがない」というイメージが抱かれている
- ・ 親が継がせない理由として「自然相手なので収入の不安定さ」がある
- ・ 新規就農が難しい理由として、「初期投資」「技術やノウハウの伝承」「地域社会からの信頼」の壁がある

8.2. 深谷市の農業基本データ

出典：農林水産省 HP「わがマチ・わがムラ」

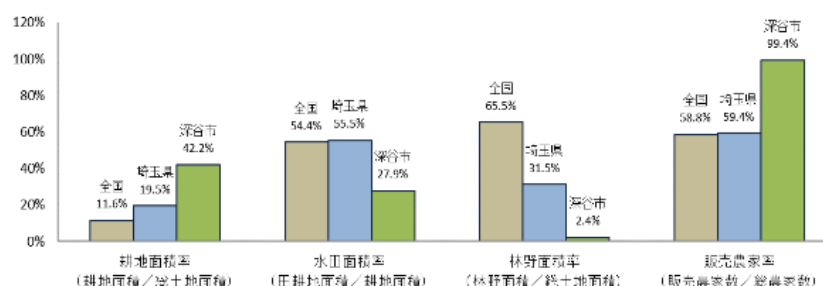
<http://www.machimura.maff.go.jp/machi/contents/11/218/index.html>

農林水産業の基本指標

■ 面積		■ 世帯等		■ 地域	
総土地面積	13,837 ha (3.6%)	総世帯数	55,854 世帯 (1.8%)	農業集落数	190 集落(4.8%)
耕地面積	5,840 ha (7.9%)	農業経営体数	2,194 経営体 (7.7%)	農産物直売所数	11 施設(1.7%)
田耕地面積	1,630 ha (4.0%)	総農家数	2,134 戸 (4.6%)	漁港数	—
畑耕地面積	4,210 ha(12.8%)	自給的農家数	12 戸 (0.1%)	漁船隻数	...
林野面積	327 ha (0.3%)	販売農家数	2,122 戸 (7.7%)		
■ 人口		主業経営体数	738 経営体(16.0%)		
総人口	141,268 人 (1.9%)	準主業経営体数	142 経営体 (3.2%)		
農業に60日以上 従事した世帯 員・役員・構成員 (経営主を含む) 数	4,182 人 (9.4%)	副業的経営体数	1,243 経営体 (6.6%)		
漁業就業者数	...	林業経営体数	—		
		漁業経営体数	...		

注1：漁港数はR3年値、耕地面積はR2年値、漁業就業者数、漁業経営体数、漁船隻数についてはH30年値、総世帯数はR2年値、農産物直売所数はH22年値、それ以外は2020年農林業センサス。

注2：()内は都道府県内でのシェア。

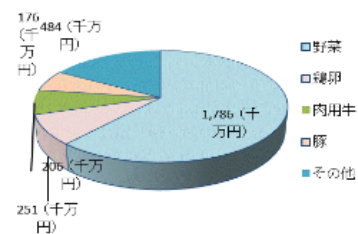


農業部門別の産出額・農業経営体数

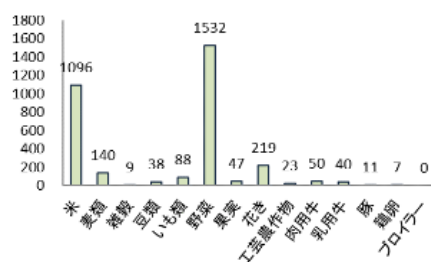
■ 農業産出額(推計)		■ 農業経営体数
合計	2,903 千万円	2,194 経営体
耕種計	2,110 千万円	
米	99 千万円	1,096 経営体
麦類	9 千万円	140 経営体
雑穀	0 千万円	9 経営体
豆類	1 千万円	38 経営体
いも類	8 千万円	88 経営体
野菜	1,786 千万円	1,532 経営体
果実	11 千万円	47 経営体
花き	168 千万円	219 経営体
工芸農作物	1 千万円	23 経営体
種苗・苗木類・その他	28 千万円	
畜産計	792 千万円	
肉用牛	206 千万円	50 経営体
乳用牛	149 千万円	40 経営体
うち生乳	131 千万円	
豚	176 千万円	11 経営体
鶏	253 千万円	
うち鶏卵	251 千万円	7 経営体
うちブロイラー	-	X
その他畜産物	8 千万円	
加工農産物	-	

注1：農業産出額(推計)についてはR元年値、農業経営体数については2020年農林業センサス。
 注2：農業経営体数の合計は実経営体数のため内訳と一致しない。

農業産出額の内訳



農業経営体数



■販売を目的とした農畜産物の作付・飼養状況

■ 稲、麦、雑穀、いも類、豆類、工業農作物

	農業経営体数	作付面積
水稻	1,093 経営体	751 ha
陸稲	9 経営体	5 ha
麦類		
小麦	137 経営体	549 ha
大麦	8 経営体	30 ha
裸麦	1 経営体	X
そば	3 経営体	10 ha
その他雑穀	6 経営体	2 ha
いも類		
ばれいしょ	78 経営体	5 ha
かんしょ	26 経営体	X
豆類		
大豆	13 経営体	11 ha
小豆	6 経営体	0 ha
その他の豆類	22 経営体	2 ha
工業農作物		
さとうきび	X	X
なたね	1 経営体	X
茶	-	-
てんさい	X	X
こんにゃくいも	-	-
その他工業農作物	22 経営体	53 ha

■ 野菜

	農業経営体数	作付面積
だいこん	154 経営体	38 ha
にんじん	79 経営体	X
さといも	123 経営体	13 ha
やまのいも	43 経営体	90 ha
はくさい	148 経営体	X
キャベツ	279 経営体	93 ha
ほうれんそう	341 経営体	60 ha
レタス	77 経営体	18 ha
ねぎ	1,021 経営体	454 ha
たまねぎ	92 経営体	X
ブロッコリー	678 経営体	615 ha
きゅうり	400 経営体	84 ha
なす	150 経営体	15 ha
トマト	135 経営体	19 ha
ピーマン	33 経営体	1 ha
いちご	12 経営体	X
メロン	4 経営体	X
すいか	23 経営体	2 ha
その他の野菜	404 経営体	356 ha

■農産物の生産

■ 普通作物・工業農作物

	作付面積	収穫量
水稻	901 ha (3.0%)	4,250 t (2.8%)
麦類		
小麦	492 ha (9.8%)	2,040 t (10.9%)
二条大麦	-	-
六条大麦	34 ha (19.3%)	126 t (17.6%)
はたか麦	X	X
大豆	12 ha (1.8%)	22 t (3.8%)
そば	14 ha (4.1%)	11 t (4.7%)
なたね	-	-

■ 果樹

	農業経営体数	栽培面積
温州みかん	3 経営体	0 ha
その他のかんきつ	3 経営体	0 ha
りんご	-	-
ぶどう	5 経営体	X
日本なし	2 経営体	X
西洋なし	-	-
もも	4 経営体	1 ha
すもも	2 経営体	X
おうとう	-	-
うめ	5 経営体	0 ha
びわ	X	X
かき	9 経営体	1 ha
くり	14 経営体	5 ha
キウイフルーツ	1 経営体	X
パインアップル	X	X
その他の果樹	17 経営体	3 ha

■ 花き

	農業経営体数	栽培面積
花き類	168 経営体	140 ha
花木	57 経営体	150 ha

■ その他の作物

	農業経営体数	栽培面積
その他の作物(稲(飼料用)を除く)	43 経営体	15 ha

■ 畜産

	農業経営体数	飼養頭(羽)数
乳用牛	40 経営体	1,567 頭
肉用牛	50 経営体	7,961 頭
豚	11 経営体	33,221 頭
採卵鶏	7 経営体	22,120 百羽
	農業経営体数	出荷羽数
ブロイラー	X	X

注1:2020年農林業センサスによる令和2年2月1日前1年間の値。

注2:作付(栽培)面積については、販売を目的として作付け(栽培)された面積。

注3:農家の自己申告による。

注1:普通作物・工業農作物は作況調査によるR2年値。ただし、水稻はR3年値。
注2:作付面積は、はく麦又は播え付けしてからおおむね1年以内に収穫された面積。
注3:()内は都道府県内でのシェア。

8.3. 深谷市における農業課題（例）

深谷市の農家からヒアリングした農業課題例を下記に紹介します。

募集提案については各応募者において課題を自由に設定して下さい。

【栽培環境】

- 圃場に生えてくる除草作業だけで、手間と時間と労力がかかる。
- 圃場での直線引き作業が、単純作業だけだとすごく手間がかかる。
- 農薬の適切な使用方法などが体系化されたアプリが欲しい。
- 日照量など、ここ数十年の天候データ（日差し、気温等）が日単位でどう変化しているかというデータがあるとよい。
- 気候変動に対応し、薬剤や追肥を的確なタイミングで散布したい。
- 暑さで農作物がダメになってしまう。
- 大雨で圃場の水がなかなか引かず、作物が窒息するなどの被害が出てしまう。
- 黒腐菌などの土壌の病気を抑える、あるいは出てしまった圃場の早期回復ができないか。
- ここ最近は特に気象が定まらず、雨が全く降らない日が続いたと思ったらゲリラ豪雨がやってくるなど、異常気象が続いている。こうした天候環境に対応する術はないか。

【収穫】

- ねぎの調製作業の時間短縮や省力化をしたい。
- 収穫作業に人手がとられてしまい、梱包などの他の作業に割く時間が少なくなってしまう。
- 夜明け前から始まるトウモロコシ収穫が楽にならないか。
- 圃場で収穫物を入れる箱が、自動で運搬してくれたら手間が減らせる。

【経営】

- 必要な時に手軽に人手を確保できないか。
- 圃場が点在していて管理が大変なので、簡易的なもので構わないのでカメラを設置することで、行かなくても状況がすぐにわかるようにすることはできないか。
- 機械代の購入費や燃料代を抑えたい。
- 農業機械が老朽化しているが、機械の金額が高くて新規投資ができない。
- 梱包などの出荷作業を短縮できないか。
- 規模の拡大（面積、収量等）と、コストを鑑みた利益のバランスのとり方がわからない。
- 「規格外」の野菜を有効活用できないか。
- 機械は欲しいが、年間で使う時間が限られているものは購入をためらう。

【その他】

- 生産した農産物に付加価値をつけたい。
- 農業のバリューチェーン（生産→市場→小売→消費者）において農家で値決めができない。
- 定植から収穫まで時間がかかるため、作物・品種ごとの成長速度にもよるが数カ月先の市場・顧客の予測が難しいので、「逆算」での計画が立てにくい。
- ベテラン農家の持っている栽培技術を継承し、地域の農業を守りたい。
- 農家が培った「勘」を体系化できれば、それを若い世代に伝えることができるのではないかな。
- 農業は引退したいが、施設や農地は残るわけでどうしたらいいか迷っている。
- 耕作地を集積化（近くにまとめる）し移動の時間と危険性をなくし、能率をあげたい。
- 特に冬の砂ぼこりがすごくて、外での作業が大変
- 体がうまく動かせない部分があるので、それをサポートしてくれる機械はないかな。
- 真夏の炎天下での作業に役立つ服や帽子があったらいい。
- 施設栽培でロボット化をしたいが、既存のハウスをそのまま利用できるものでないと使いづらい。

※上記の農業課題は、深谷市の生産者の声などを一部抜粋したのになります。

併せて、以下の農業課題一覧もご参考ください。

【参考】DEEP VALLEY ホームページ 農業課題一覧

<https://deep-valley.jp/agritask/>

